

# 国際交流基金助成事業報告書

薬学部 4 年次生 吉住 歩

## 1. はじめに

平成 30 年 8 月 18 日から 27 日までの 10 日間、国際交流基金の助成を受け、カナダのバンクーバーで行われたサマープログラムに参加したことについて報告致します。滞在中はホームステイをしながら Vancouver International College (VIC) に通い医療英語のレッスンを受け、また医療施設の見学も行いました。

## 2. 語学学校

バンクーバー市街地のビルに存在する“VIC”という大学にて、大阪薬科大学から参加した 11 人で構成されたクラスで、医療英語のレッスンを受けました。月曜日から金曜日の平日にこの大学へ通い、リスニング、リーディング、ディスカッション等を通して様々な医療英語を学びました。授業の後にはゲストスピーカーによるスピーチを聞く機会があり、今回は救急救命士、薬剤師、医療通訳者の方のお話を聞くことが出来ました。実際に使われている道具を見せていただきながら、バンクーバーにおける医療に関する様々な話を聞くことで、カナダにおける医療従事者関連の知識を大いに得ることが出来たと感じます。



Fig.1 授業風景



Fig.2 大学

## 3. 医療施設見学

医療英語レッスンを受けた後にはバンクーバーにある医療施設の見学も行いました。今回は St. Paul's Hospital、UNION GOSPEL MISSION Reception、SPROTT SHAW COLLEGE、Vancouver General Hospital に訪問しました。それぞれその施設の方が案内、説明を行ってくださり、またその方に自由に質問をすることが出来たので、バンクーバーと日本の医療形態や職業の違いなどを多く知ることが出来ました。今回の留学において、日本とカナダの環境や考え方の違いを最も感じたのはこの医療施設見学であったと思います。



Fig. 3 UNION GOSPEL MISSION Reception



Fig. 4 Vancouver General Hospital

#### 4. ホームステイ

今回私は、ダウンタウンから電車とバスを約40分乗り継いだ場所にホームステイをしました。バンクーバー市街地と比較しても自然が多く、静かな場所でありつつも交通機関は充実しており住みやすい場所であると感じました。ホストファミリーは仲の良い5人家族であり、日本人の私にも分け隔てなく優しく接してくれました。カナダは多民族国家です。私のホストファミリーはカナダに住んでいますがフィリピン人であり、家族同士で話す場合はフィリピン語を用いていました。初めの間は家庭内で2つの言語を用いることに少し戸惑いましたが、このホームステイを通して様々な家庭の形態があることを知りました。

#### 5. おわりに

このバンクーバー語学研修が私にとって初めての留学であり、行く前や到着当初は不安な気持ちもありましたが、ホストファミリーや講師の先生、一緒に参加した皆のおかげで大変充実した10日間を送ることが出来たと感じます。この研修で様々な新しい知識を得ることが出来たと同時に、積極的に行った英語でのコミュニケーションを通して、今までになかった自信をつけることが出来たような気がします。これらの経験を、より良い自分の将来の実現のために役立てていきたいと考えます。



Fig. 5 帰国後集合写真